ニュースを「生き抜く力」に
まなぶ@朝日新聞

新聞「人生」考えるきっかけ

若者の就職活動、シニアの「第二の人生」探しなど、新聞は自分の未来を考える材料にもなります。今月19日に紹介した[上]に続き、新聞の有効な活用方法を池上彰さんに聞きました。

気になる記事はビリッ

池上彰さんインタビュー[下]

いけがみ・あきら　1950年生まれ。ジャーナリスト。著書に「池上彰の新聞ウラ読み、ナナメ読み」（ＰＨＰ研究所）、「書く力」（朝日新聞出版）など。

私が得る1次情報は基本的に新聞です。それをきっかけにインターネットで検索したり、情報源の人に電話し「これはどういうこと?」と聞いたりして知識を深めます。

この流れについて、私は「フロー」と「ストック」という言い方をします。日々の新聞は「フロー」。流れていくものです。読んでいく中で引っかかり「あれ?どういうことだろう」と思ったら、リアル書店で専門書を買って読む。フローの新聞記事をきっかけに、自分で勉強することが「ストック」になる。

中東問題でいえば、昔は「中東問題ってそもそも何?」というレベルだったけれど、専門書を読むとパレスチナ自治区におけるイスラム原理主義組織の「ハマス」とパレスチナ自治政府主流派の「ファタハ」の違いを知りまくることがお勧めです。特に新聞記事は切り抜くことです。今、団塊の世代の人たちがどんどんリタイアしています。これからも増えます。第二の人生をどうすればいいか困っている人もいると思います。会社から切り離されたとたんぬれ落ち葉になったり、生きがいを失ったりするわけですね。そんなとき「次の人生何をやろうかな」ということは、意外に自分では分からない。実は他人から見ると「あなたはこういうことが向いているよ」と言えることも多い。それを教えてくれるのが新聞記事です。ボランティア活動をしている人の「第二の人生でこんなことをしている」という記事が気になったら、ビリビリ破って取っておけばいい。次第に積み重なると「あ、俺はこういうことをやりたいんだ」とわかり、「これで第二の人生を歩もう」と自分を知り、新たな人生を歩むきっかけになる。

高校生や大学生も、将来どんな職業に就きたいか分からないとき、新聞を見て「こんな仕事がある」と気になれば破いて残せばいい。新聞はビリビリ破いていい。大事に取っておく必要はない。興味・関心がある記事をためることで、自分を客体化して見られる。「本当はこういうことがやりたい」と気づく。これが職業選択に役立ちます。

企業選択の希望は、商品やサービスを提供する「ＢｔｏＣ」（Business to Consumer・消費者向けビジネス）企業が多い。身近だから。でも、あまり知られていない「ＢｔｏＢ」（Business to Business・企業間取引）企業にも、日本経済を支える堅実な「ＢｔｏＢ」はいくらでもある。そういうことは新聞を見ると分かる。

いろんなことがＡＩ（人工知能）に置き換えられていくのは間違いないけれど、そもそもＡＩのアルゴリズムは人間がつくっているわけですよね。ＡＩによって思わぬ問題が起きたとき、どうするかも結局は人間であり、人間の倫理観だと思います。人間は「ここでやっちゃいけない」と止まるけれど、ＡＩ兵器なら情け容赦なく皆殺しにできる。そんな時どうあるべきか。ＡＩがどんどん進んでいくとき私たちはどう生きるべきか、どう働くべきかを考えるきっかけをつくってくれるのが新聞記事だと思います。

（聞き手・教育総合本部長　桜井透）

ニュース時事能力検定試験
検NEWS

図表読み解く問題も　朝日新聞も主催に

ニュースを読み解き、活用する力を養い、認定するニュース検定（ニュース時事能力検定試験）。２００７年の開始から志願者数は増え続け、12年間で累計41万人を突破しました。

これまで毎日新聞社や地方新聞社などが主催してきましたが、19年度から朝日新聞社が加わります。

検定では知識を問う問題だけでなく、図やグラフと記事を組み合わせ複合的に考える問題も出ます。

図表を読み解く問題は近年、様々な試験で出題されています。大学入学共通テストの17年度試行調査（国語）では、生徒会規約や生徒のアンケート結果の円グラフ、会話文などを組み合わせ考える問題が出題されました。18年度全国学力テスト（中学・国語Ｂ）でも、世論調査の結果をまとめた折れ線グラフが出ています。実用的な文章や図が出題される背景には「知識をいかに活用できるか」を重視する流れがあります。

ニュース検定では、３級以上で「読解・活用問題」を出題。知識に加え、情報を読み取り、活用する力を総合的に評価します。

ニュース検定は全国約４００の大学・短大の入試で評価・優遇されており、小論文やＡＯ入試対策などとして多くの高校生が受検しています。また、約２００大学がキャリア教育などに活用しています。新聞を愛読するシニア層からも「検定受検で久しぶりに達成感が味わえた」といった感想が寄せられています。

6月の検定　3月1日から受け付け

6月23日（日）に実施される2019年度最初のニュース検定は、３月１日から申し込みの受け付けが始まります。

公式サイト（https://www.newskentei.jp/）のほか、全国の主要書店や主催新聞社で配布する申込書（検定料は郵便局から払い込み）を使って申し込めます。全国41都市の公開会場で受検できるほか、学校などでの団体受検も受け付けます（団体の受け付け開始は３月11日）。

検定は四肢択一のマークシート方式（１級は一部記述を含む）。時間は50分。

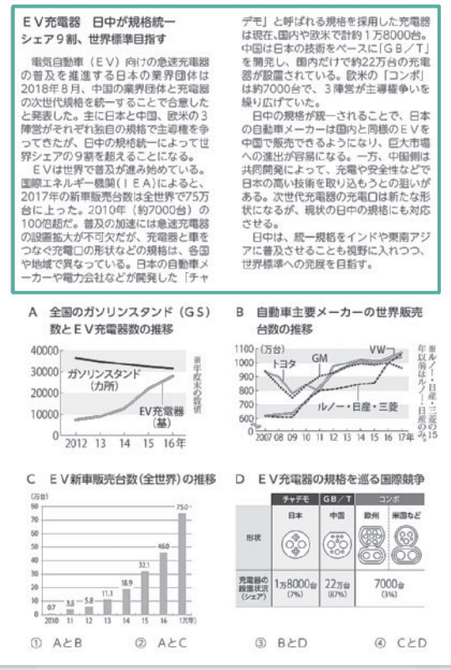
個人受検の検定料（税込み）は１級6500円、２級4500円、準２級3500円、３級3000円、４級・５級2500円。

２～５級の検定問題の約６割が出題される公式教材の2019年度版は３月中下旬に順次発売予定です。全国の主要書店のほか、まなぶ@朝日新聞ｅ－ｓｈｏｐ（http://www.asahij-ec.com/）でお買い求めいただけます。

お問い合わせ、申込書の郵送希望は朝日新聞社教育総合本部（03・5540・7582、平日午前10時～午後６時）まで。

ニュース検定の出題例①　～情報を分析・活用する問題～

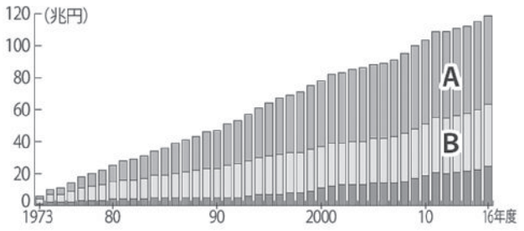
新聞記事を課題として読んだ上で、記事に添える図表として適切なもの二つの組み合わせを答える問題です



（2018年度検定問題準2級より抜粋）　正解 ④

ニュース検定の出題例②　～グラフを使った問題～

Q. 次のグラフは、日本の社会保障給付費の内訳の推移を表しています。グラフ中のA、Bの項目として正しい組み合わせは?



① A－年金　B－医療
② A－医療　B－年金
③ A－福祉　B－年金
④ A－医療　B－福祉

（2018年度検定問題準2級より抜粋）　正解 ①